

福知山市議会「蒼士会」 行政視察研修報告書

- 1 視察日程 令和元年8月29日（木）～30日（金）

- 2 視察先及び調査項目
 - (1) 東京都千代田区霞が関
総務省情報流通行政局情報流通振興課情報活用支援室
「スマートフォンを活用出来ない高齢者の情報格差の解消に向けて」

 - (2) 長野県茅野市
「健康長寿の長野県で茅野市の行う健康寿命増進策について」

「スマートフォンの活用による健康長寿策について」

「市民の健康維持のための具体策について」

- 3 参加委員
野田 勝康、高橋 正樹、足立 治之 計3名

- 4 視察経費 総額128,377円（1人あたり42,792円）

- 5 調査報告
別紙のとおり

視 察 日	令和元年 8 月 2 9 日 (木)
視 察 先	東京都霞ヶ関 総務省情報流通行政局情報流通振興課情報活用支援室
調査項目 施策・取組等	スマートフォンを活用出来ない高齢者の情報格差の解消に向けて
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	本市の 6 5 歳以上高齢者の人口は約 23, 000 人で、スマートフォンの利用の可否が情報量の格差につながっている。本件に関して国の施策を研究することを目的としている。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	デジタル活用共生社会実現に向けてーデジタル活用共生社会実現会議報告 ○総人口が減少していく中、高齢者の割合の増加、生産年齢人口減少局面あり。 ○5 G の普及に伴い、ビッグデータのリアルタイムでの収集が可能となり A I スピーカー・ウェアラブル端末・A I 家電・多言語翻訳 A R / V R ・自動運転・汎用型 A I ロボット等の開発普及が目覚ましいものとなる。 ○目指すべき社会像は、年齢、障害の有無、性別、国籍などにかかわらず誰もがデジタル活用の利便性を享受し、豊かな人生を送ることが出来る社会の実現を目指すことが必要。
考察・効果	○現在国では、デジタル活用共生社会の実現に向けた課題を挙げている。その中でも特に高齢者に関する課題は下記のとおりである。 【高齢者の生きがい、再活躍の場の創出】 ○身体機能・認知機能の低下→障害当事者参加型技術開発の推進 ○生きがい、再活躍の場→デジタル活用支援員、テレワークなど ○独居世帯の増加、繋がり希薄化→デジタル活用支援員、地域 ICT クラブ 他に、障害者の社会参画・男女共同参画・多文化共生など様々な部門で課題があるが、ここでは高齢者に関するものを挙げる。
・政策提言への反映 ・本市での施策実現に向けた比較研究(効果及び課題)	○スマートフォン活用出来ない高齢者の情報格差についての課題解決のため、スマートフォンを教えるデジタル活用支援員の整備を導入予定である。支援員は、地域の高齢者に自ら働きかけ、支援をしていく。このことが高齢者から高齢者への働きかけとなり、生きがいとなり健康寿命を延ばすことにもつながる。今後、国内では、島原市と鎌倉市でスマホ・タブレットを利用し、公民館などで支援員が教える活動が実践される予定である。但し、支援員の人件費などについてのどうするのか、等課題は多い。本市においても同様である。

【8月29日（木）1日目総務省での研修】



【総務省玄関前にて】



【総務省会議室にて】

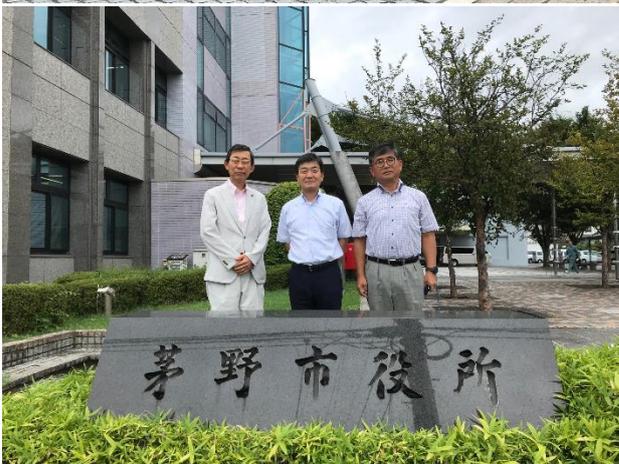
視 察 日	令和元年 8 月 3 0 日 (金)
視 察 先	長野県茅野市役所 人口 55,578 人 (令和元年 1 0 月 1 日現在) 市面積 266.59 km ² 議員定数 18 人
調査項目 施策・取組等	① 健康長寿の長野県で茅野市の行う健康寿命増進対策 ② スマートフォンの活用による健康長寿策はあるのか ③ 市民の健康維持のための具体策はあるのか
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	高齢者の健康寿命を延ばし、医療費の増加を最小限にするため、長寿県である長野県の具体的な施策を研究することが目的である。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	○茅野市では、市民とともに進める地域福祉のシステム形成「福祉 21 ビーナスプラン（地域福祉プラン）による地域福祉実施」をきっかけ、市民にパートナーシップのまちづくりを提唱している。 ○健康福祉サービスについては、茅野市を 4 つのエリアに分け、それぞれに保健福祉サービスセンターを置き、365 日 24 時間対応で総合的な相談を受け付けし、地域との密着をはかっている。また、24 時間ではないが、看護師も常駐させている。 ○現在のところスマートフォンを活用した施策は考えていない。 ○茅野市民の健康維持のための具体策としては、市民対象の健康熟年大学が、その特筆すべきものである。医師による運動制限のない 60 歳以上の健康な方を対象としており下記の 4 項目を実践している。 ※インターバル速歩日本語による有酸素運動の実施と定期的な運動教室による基礎体力づくり ※医師（内科医・整形外科医）による健康講話 ※管理栄養士・食生活改善推進員による栄養講座と調理実習 ※諏訪湖一周ウォークのような体力向上を確認する「チャレンジカリキュラム」 ※ハイキングなど精神面のリフレッシュと受講者間の親睦を図る行事 上記の項目を実践し、体重・血圧・体脂肪率にも良い効果が出ている。
考察・効果	○市民への保健福祉サービスセンターの対応時間が、365 日 24 時間対応となっており、この点については本市も検討の必要があるかもしれない。 ○元気もりもり食育プラン（地元の素材を活用したもの）や数十コースある市内ウォーキングマップなど、健康面での総合プログラムを作成されている点もすぐれている。特に食育に関しては、地元食材を中心にしたプランがたてられており本市も検討していくことが必要かもしれない。 ○茅野市と本市を比べた場合、これだけ健康に関して具体的な施策がうたれてるかと言うと、若干疑問が残る。 ○茅野市のいきいき健幸（康）ルーム（温泉施設を併用）では、スポーツや栄養講座や地域活動の講座やカフェなどを開設しており、市民の憩いの場となっている。この点について、本市では各個人が民間の NPO 法人の経営の施設を利用しているに留まっている。

<ul style="list-style-type: none"> ・政策提言への反映 ・本市での施策実現に向けた比較研究（効果及び課題） 	<p>○本市で茅野市と同じ健康に対する具体的な施策をとった場合、人口の差もあり財政的に大変苦しい場面が出てくるので、この部分は NPO 法人に任せる方が得策であるかもしれない。</p> <p>○本市では、茅野市のように保健福祉サービスセンターを設けることは難しいと思うが、昔の保健婦さんのように地域に密着したコミュニティーナーズ制度を実施することは可能かもしれない。特に福知山市の旧 3 町に対しては、この制度の検討も必要になってくるのではないか。</p>
--	--

【8月30日（金）茅野市役所視察】



茅野市民館は JR 茅野駅に隣接している。図書館（小規模だが）・美術館・市民会館・劇場・音楽ホールスタジオ・レストラン等との複合施設となっている。駅に隣接しているためとても便利。



【茅野市役所玄関にて】



【茅野市役所会議室にて】